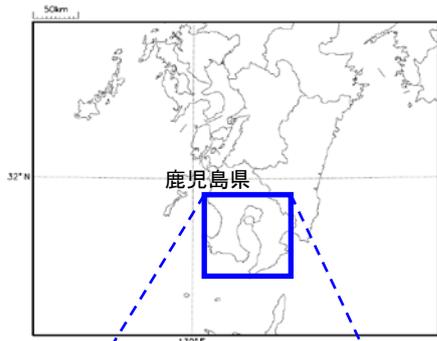
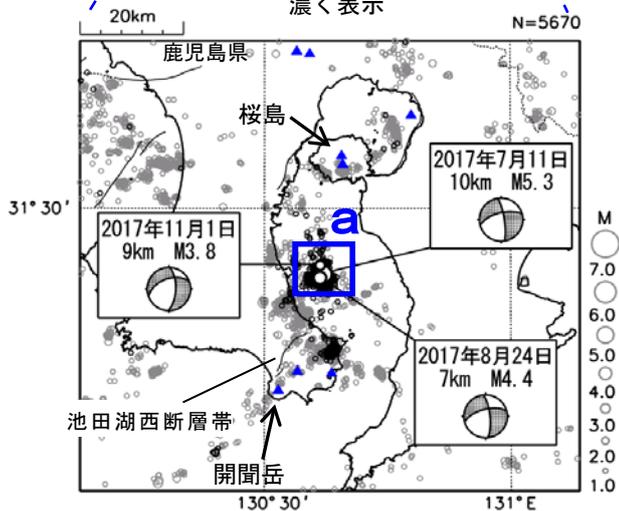


2016年12月からの鹿児島湾の地震活動



震央分布図

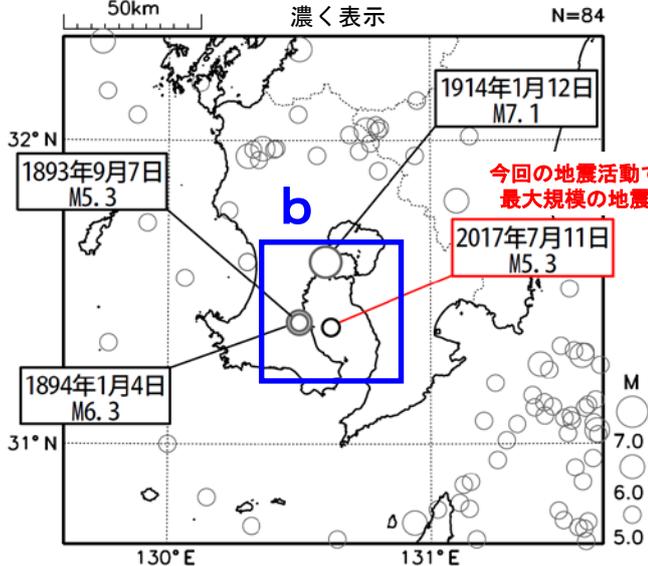
(2000年10月1日～2017年11月1日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2017年7月11日以降の地震を
濃く表示



図中の細線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

震央分布図

(1885年1月1日～2017年11月1日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
2017年7月11日以降の地震を
濃く表示



鹿児島湾（震央分布図領域a）では、2016年12月頃から地震活動がやや活発となり、2017年7月11日にM5.3の地震（最大震度5強、深さ10km）、8月24日にM4.4の地震（最大震度4、深さ7km）、11月1日にM3.8の地震（最大震度4、深さ9km）が発生するなど、現在も地震活動が継続している。この地震活動は地殻内で発生している。この地震活動により、2017年5月から同年11月1日までに震度1以上を観測した地震が49回（最大震度5強：1回、最大震度4：2回、最大震度3：2回、最大震度2：4回、最大震度1：40回）発生した。7月11日の地震では負傷者1人などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

1885年1月以降の活動をみると、今回の地震活動付近（領域b）では、1893年9月7日にM5.3の地震が発生し、知覧（現在の南九州市知覧町付近）で土蔵破損10、居宅半倒1、倒家2などの被害が生じた。また、1894年1月4日にM6.3の地震が発生し、山崩れ29、道路決壊11などの被害が生じた。1914年1月12日にはM7.1の地震が発生し、鹿児島市内で死者13人、負傷者96人、住家全壊39棟などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図

